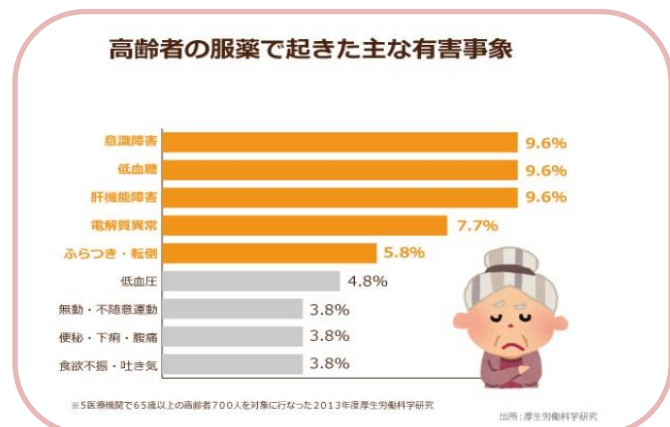
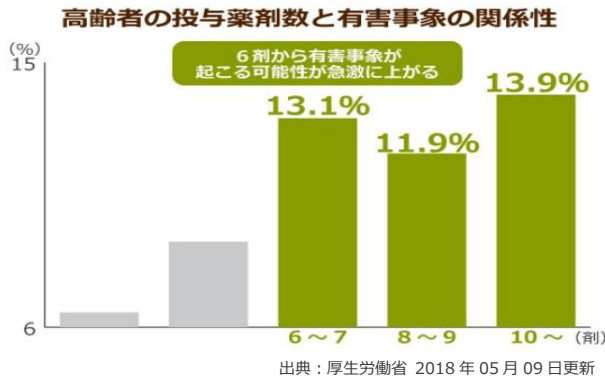


ポリファーマシーについて

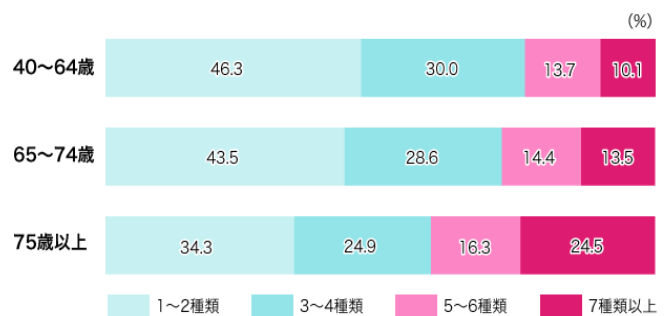
「ポリファーマシー」という言葉を耳にされたことはありますか？ポリファーマシーとは「Poly（多くの）」+「Pharmacy（調剤）」の造語です。ポリファーマシーには明確な定義があるわけではありませんが、一般的には「たくさんの薬を服用する事で薬による有害事象（副作用）が起こっている状態」を指します。

飲んでいる薬が6種類を超えると意識障害やふらつき・転倒などの有害事象が増えることが報告されています。また、たくさんの薬を飲むことにより、予期しない相互作用（薬同士が喧嘩する）の出現、死亡リスクや転倒リスクの増加、残薬の増加、医療費の増加、飲み忘れ・飲み違いも起こります。



高齢者ではさまざまな体調の変化に合わせて多数の薬を服用しがちです。例えば高血圧と胃の調子が悪くて内科を、神経痛で整形外科を、トイレが近くなって泌尿器科を受診した場合…。内科で降圧剤

と胃薬が処方され、整形外科で痛み止めとその副作用防止のために胃粘膜保護の胃薬が処方され、泌尿器科で降圧効果もある頻尿の治療薬が処方され…。このような感じで同じような作用の薬を何種類も服用することになってしまうのです。当院に入院される患者様の中にも、20種類以上の薬を持参される方がいらっしゃいます。



平成 29 年社会医療診療行為別統計の概況（厚生労働省）より抜粋。図表を加工して作成。

当院の薬剤科では、すべての入院患者様の持参薬鑑別を徹底して行い、入院時に服用されている全ての薬の把握をしています。また、入院中も同種同効の薬剤が処方されていないか、薬物有害反応がないかを毎日の業務の中で確認し、薬の中止や変更、減量など医師への処方提案も行っております。服用数にかかわらず、種類が少なくても不要な薬剤は減らし、必要な薬剤を適正に服用することが大切です。

薬剤科科長 佐敷 暢子

～より質の高いリハビリ病棟を目指し 体制強化加算を届出～

回復期リハビリテーション病棟入院料には「体制強化加算」という施設基準があります。その基準は、専従の「医師」「PT, OT, ST」「社会福祉士」を当該病棟に配置するというもので、より質の高い「チーム医療」を提供する病棟としての位置付けとなります。4病棟中1病棟からのスタートとなりますが、全病棟取得を目指します。

